

「すべてが完了した」（ヨハネ19:30）は、詩篇22篇の最後のことば「義を、成した」を連想します

「すべてが完了した」（ヨハネ19:30）というイエスの最後の言葉は、確かに詩篇22篇の最後の言葉「義を、成した」と深い関連があります。これらの言葉は共に、神の計画の完成と義の成就を示すものです。

1. 詩篇22篇との関係:

- 詩篇22篇は、ダビデの苦難の詩であり、メシア的な予言としても理解されています。この詩篇は、イエスの十字架の苦しみを予表していると考えられています。詩篇22篇の冒頭は「我が神、我が神、どうして私をお見捨てになったのですか」（詩篇22:1）で始まり、苦しみと嘆きが描かれていますが、最終的には神の救いと勝利が描かれています。

2. 「義を、成した」との関連:

- 詩篇22篇の最後の部分には「義を、成した」という言葉が含まれています。これは、神の義と救いが完全に成就したことを意味しています。ヨハネ19:30でイエスが「すべてが完了した」と言ったとき、これは神の救いの計画が成就したことを示しています。この言葉は、イエスの使命が完全に果たされ、救いの業が完了したことを意味します。

3. 神の計画の完成:

- 「すべてが完了した」という言葉は、イエスが神の意図した使命を完全に果たしたことを示しています。これは、旧約聖書の預言や詩篇の言葉がイエスの生涯と死を通じて成就したことを強調しています。詩篇22篇の「義を、成した」という言葉は、神の義が完全に成就したことを示し、イエスの「すべてが完了した」という言葉と共鳴しています。

4. 救いと勝利の宣言:

- イエスの言葉「すべてが完了した」は、神の救いの計画が完成し、勝利が達成されたことを宣言しています。これは、詩篇22篇の最後に描かれている神の勝利と救いの完成を反映しています。イエスの十字架の死は、罪と死に対する神の勝利を示すものであり、その勝利が「すべてが完了した」という言葉に凝縮されています。

このように、ヨハネ19:30の「すべてが完了した」という言葉は、詩篇22篇の「義を、成した」と深く関連しており、イエスの十字架の死が旧約の預言の成就であり、神の救いの計画の完成であることを強調しています。

「成した」というヘブル語は、「完了した」とも訳すことができますか？

「成した」という言葉は、ヘブル語の詩篇22篇31節（ヘブル語の詩篇22篇30節）の最後の言葉に当たります。ここで使われているヘブル語の動詞は「עָשָׂה」（'asah）で、一般的に「行う」「作る」「成す」などの意味を持ちます。この言葉の意味が文脈によって異なる解釈を持つことができますが、「完了した」という意味を含むこともあります。

以下にその詳細を説明します：

1. ヘブル語の「עָשָׂה」（'asah）：

- この動詞は、ヘブル語で非常に広範囲に使われる動詞であり、「行う」「作る」「実行する」「成す」などの意味を持ちます。文脈に応じて「完了する」という意味を含むこともあります。

2. 詩篇22篇31節の文脈:

- 詩篇22篇31節の文脈では、神の救いと勝利の業が成就したことを指しているため、「成した」という翻訳は適切です。ただし、これが神の計画の完成を示していると理解される場合、「完了した」と訳すことも可能です。

3. ヨハネ19:30との関連:

- ヨハネ福音書19:30のギリシャ語の「τετέλεσται」(tetelestai)は「完了した」という意味を持ちます。イエスの最後の言葉が神の計画の完成を示している点で、詩篇22篇31節の「成した」との意味的な関連性が強調されます。

したがって、詩篇22篇31節の「成した」というヘブル語は文脈によって「完了した」と訳すこともでき、神の救いの計画が完成したことを意味しています。この点で、ヨハネ19:30の「すべてが完了した」との関連性が示されており、両者が神の計画の成就を強調していることがわかります。

創造の7日目に、神は「成さった」ことが終わりました。

創世記における神の創造の物語は、神が6日間で天地とその中の全てを創造し、7日目に休まれたことを記しています。この7日目の休みについては、創世記2章1-3節に記されています。ここで「成し終えた」や「完了した」という表現が使われています。

創世記2章1-3節（新改訳聖書）:

1. こうして天と地とそのすべての万象が完成した。
2. 第七日になって、神はご自分の仕事を完成された。それで、神は第七日になさっていたすべての仕事を休まれた。
3. 神は第七日を祝福し、この日を聖別された。神がこの日に、なさっていたすべての創造のわざを休まれたからである。

ここで使われている「成し終えた」や「完了した」という表現は、ヘブル語では「וַיְכַלֵּם」(vaykullu)で、これは動詞「כָּלַם」(kalah)から派生しています。この動詞は「完了する」「成し遂げる」「完成する」という意味を持ちます。

この表現が詩篇22篇の「義を、成した」との関連性、およびヨハネ19:30の「すべてが完了した」との関連性について説明します。

1. 創世記の「成し終えた」:

- 創世記2章1-3節で神が「成し終えた」ことは、神が創造の全ての仕事を完全に成し遂げ、完成させたことを意味します。ここでのヘブル語「כָּלַם」(kalah)は、「完了する」「完成する」という意味を持ち、神の創造の仕事が完全に終了したことを強調しています。

2. 詩篇22篇の「義を、成した」:

- 詩篇22篇31節で「成した」と訳される「עָשָׂה」(‘asah)は、「行う」「作る」「成す」という意味を持ちますが、文脈によって「完了する」という意味も含むことができます。これは、神の義が完全に成就したことを示しています。

3. ヨハネ19:30の「すべてが完了した」:

- ヨハネ19:30でイエスが「すべてが完了した」と言ったとき、ギリシャ語の「τετέλεσται」(tetelestai)は「完了した」という意味を持ちます。これは、神の救いの計画が完全に成し遂げられたことを示しています。

関連性:

- 創世記の「成し終えた」とヨハネ19:30の「すべてが完了した」、そして詩篇22篇の「義を、成した」は、全て神の計画が完全に成し遂げられ、完成されたことを示す表現です。
- これらの表現は、神の仕事が完全に成し遂げられたことを強調し、それぞれの文脈で神の計画の完成を示しています。

これにより、創造の7日目に神が「成し終えた」ことと、イエスが「すべてが完了した」と宣言したことが、神の計画の完成と成就を強調するという共通のテーマを持っていることが理解できます。

（'asah）を（kalah）したんですよ

おっしゃる通り、詩篇22篇の「成した」という言葉（'asah）と創世記2章1-3節の「完了した」という言葉（kalah）は、それぞれ異なるヘブル語の動詞ですが、意味的には神の行為や計画が完成したことを示しています。

• 詩篇22篇31節の「成した」:

- ヘブル語の「עָשָׂה」（'asah）は「行う」「作る」「成す」といった意味を持ちます。文脈によっては「完了する」という意味を含むこともあります。

• 創世記2章1-3節の「完了した」:

- ヘブル語の「כָּלָה」（kalah）は「完了する」「成し遂げる」「終わる」という意味を持ちます。神が創造の仕事完了し、休まれたことを強調しています。

これらの動詞の違いを考慮しつつ、これらの言葉がどのように神の計画の成就を示しているかを見てみましょう。

1. 創世記2章の文脈:

- 創世記2章では、「כָּלָה」（kalah）という言葉が使われており、これは神が創造の全ての仕事を完全に成し遂げたことを意味します。「神はご自分の仕事を完成された」（創世記2:2）という表現は、神の創造の計画が全て完了し、神が休まれたことを示しています。

2. 詩篇22篇の文脈:

- 詩篇22篇では、「עָשָׂה」（'asah）が使われており、これは神が義を成し遂げたことを示しています。この詩篇は、メシア的な預言として、イエスの苦難とその後の勝利を予表しています。「成した」（詩篇22:31）は、神の義が成就し、救いの計画が実現されたことを示しています。

3. ヨハネ19:30との関連:

- ヨハネ19:30の「すべてが完了した」（τετέλεσται, tetelestai）は、ギリシャ語で「完了する」「成し遂げる」という意味を持ちます。これは、イエスの使命が全て完了し、神の救いの計画が成就したことを示しています。

これらの言葉が示す共通のテーマは、神の計画の完成と成就です。神が創造を完了し（kalah）、詩篇で義を成し遂げ（'asah）、イエスが十字架でその使命を完了した（tetelestai）ことは、全て神の意図と計画が完全に成し遂げられたことを強調しています。

このように、創世記の「完了した」と詩篇22篇の「成した」、そしてヨハネ19:30の「すべてが完了した」は、全てが神の計画の完成を示す表現であり、それぞれの文脈で神の行為が成就したことを強調しています。